

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会
フォローアップ報告書（大会開催後）

（有明アーバンスポーツパーク）

令和 4 年 2 月

東 京 都

目 次

1. 東京 2020 大会の正式名称	1
2. 東京 2020 大会の目的	1
3. 東京 2020 大会の概要	2
4. 有明アーバンスポーツパークの計画の目的及び内容	4
4.1 目的	4
4.2 内容	4
4.3 有明アーバンスポーツパークの計画の策定に至った経緯	15
5. 調査結果の概略	16
6. フォローアップの実施者	17
7. その他	17
7.1 東京 2020 大会に係る実施段階環境アセスメント及びフォローアップの全対象事業 についての実施段階環境アセスメント及びフォローアップの経過	17
7.2 調査等を実施した者の氏名及び住所並びに調査等の全部又は一部を委託した場合に あっては、その委託を受けた者の氏名及び住所	17
8. 調査の結果	21
8.1 大気等	21
8.2 騒音・振動	26
8.3 廃棄物	29
8.4 交通渋滞	37
8.5 交通安全	41

1. 東京 2020 大会の正式名称

第 32 回オリンピック競技大会（2020／東京）

東京 2020 パラリンピック競技大会

2. 東京 2020 大会の目的

2.1 大会ビジョン

東京 2020 大会の開催を担う公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下「大会組織委員会」という。）は、2015 年 2 月に国際オリンピック委員会、国際パラリンピック委員会に提出した「東京 2020 大会開催基本計画」において以下の大会ビジョンを掲げている。

スポーツには、世界と未来を変える力がある。
1964 年の東京大会は日本を大きく変えた。2020 年の東京大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、
「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」を 3 つの基本コンセプトとし、
史上最もイノベーティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

2.2 都民ファーストでつくる「新しい東京」～2020 年に向けた実行プラン～

東京都は、2016 年 12 月に策定した「2020 年に向けた実行プラン」において、「都民ファーストの視点で 3 つのシティを実現し、新しい東京をつくる」ことを示している。また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京 2020 大会」という。）の成功に向けた取組を分野横断的な政策の展開に位置付け、「東京 2020 大会の成功は、東京が持続可能な成長をしていくための挺子であり、そして、ソフト・ハード面での確かなレガシーを次世代に継承していかなければならない」としている。

東京 2020 大会実施段階環境アセスメント（以下、「本アセスメント」という。）の実施にあたっては、適宜「2020 年に向けた実行プラン」を参照し進めていく。

都民 FIRST(ファースト)の視点で、3 つのシティを実現し、新しい東京をつくる

東京 2020 大会の成功とその先の東京の未来への道筋を明瞭化

【計画期間】2017（平成 29）年度～2020（平成 32）年度

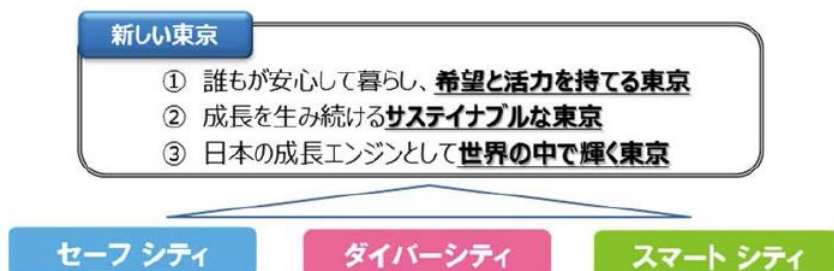


図 2. 2-1 「2020 年に向けた実行プラン」における 3 つのシティ

3. 東京 2020 大会の概要

3.1 大会の概要

大会組織委員会は、東京2020大会のオリンピック競技大会を当初は2020年7月24日から8月9日まで開催し、また、パラリンピック競技大会を8月25日から9月6日まで開催する予定としていたが、オリンピック競技大会を2021年7月23日から8月8日まで、パラリンピック競技大会は2021年8月24日から9月5日までとする新開催日程で実施された。

実施競技数は、オリンピック 33 競技、パラリンピック 22 競技である。

3.2 東京 2020 大会の環境配慮

大会組織委員会は、「東京 2020 大会開催基本計画（2015 年 2 月策定）」の中で、東京 2020 大会は、単に 2021 年に東京で行われるスポーツの大会としてだけでなく、2021 年以降も含め、日本や世界全体に対し、スポーツ以外も含めた様々な分野でポジティブなレガシーを残す大会として成功させなければならないとし、「東京 2020 アクション&レガシープラン 2016（2016 年 7 月策定）」において、街づくり・持続可能性に関する以下のレガシーとアクションを示した。

表3.2-1 街づくりに関するレガシーとアクション

レガシー	アクション
「ユニバーサル社会の実現・ユニバーサルデザインに配慮した街づくり」	競技施設、鉄道駅等のユニバーサルデザインの推進、アクセシブルな空間の創出等、ユニバーサルデザインに配慮した街の実現
「魅力的で創造性を育む都市空間」	都市空間の賑わいの創出、公園・自然環境等の周辺施設との連携
「都市の賢いマネジメント」	ICTの活用、エリアマネジメント活動の活性化等
「安全・安心な都市の実現」	安全・安心のための危機管理体制の構築

表3.2-2 持続可能性に関するレガシーとアクション

レガシー	アクション
「持続可能な低炭素・脱炭素都市の実現」	気候変動対策の推進、再生可能エネルギーなど持続可能な低炭素・脱炭素エネルギーの確保
「持続可能な資源利用の実現」	資源管理・3Rの推進
「水・緑・生物多様性に配慮した快適な都市環境の実現」	生物多様性に配慮した都市環境づくりや大会に向けた暑さ対策の推進
「人権・労働慣行等に配慮した社会の実現」	調達等における人権・労働慣行等に配慮した取組の推進
「持続可能な社会に向けた参加・協働」	環境、持続可能性に対する意識の向上、参加に向けた情報発信・エンゲージメントの推進

また、大会組織委員会は、東京 2020 大会を持続可能性に配慮した大会とするため、大会関係者の拠り所となる「持続可能性に配慮した運営計画 第一版（2017 年 1 月）」を策定した。本運営計画において、東京 2020 大会が取り組む持続可能性に関する主要テーマを、「気候変動（カーボンマネジメント）」「資源管理」「大気・水・緑・生物多様性等」「人権・労働・公正な事業慣行等への配慮」「参加・協働、情報発信（エンゲージメント）」の5つとしている。

2018 年 6 月には、「持続可能性に配慮した運営計画 第二版」を策定し、持続可能性に配慮した競技大会を目指す意義として SDGs への貢献を明確化している。「持続可能性に配慮した運営計画 第二版」の基本的な考え方は、表 3.2-3 に示すとおりである。

表 3.2-3 「持続可能性に配慮した運営計画 第二版」の基本的な考え方

基本理念	<ul style="list-style-type: none"> ・世界最大規模のスポーツイベントであるオリンピック・パラリンピックは世界規模の影響 ・東京 2020 大会は、大会の準備運営に持続可能性を組み込み、その責任を果たすことで貢献 ・大会の持続可能性のコンセプト「be better, together / より良い未来へ、ともに進もう。」
持続可能性の主要テーマ	持続可能性の 5 つの主要テーマは、環境・経済・社会の側面に統合的に取り組むことから、SDGs の目標等の全体に幅広く関連
関係組織	組織委員会を核として、都、国、関係自治体、スポンサー等との連携の下に実施
運営計画の適用範囲	主体として直接管理する範囲に加え、影響を及ぼすことができる範囲についても考慮
持続可能な発展の統治原則	持続可能性における基本的な価値観である 4 つの統治原則（持続可能性への責任、包摂性/利害関係者の参画、誠実性、透明性）を尊重
マネジメントの仕組み、ツール	取組を確実に実施するため、イベントの持続可能性をサポートするための国際規格である ISO20121 の導入や「持続可能性に配慮した調達コード」の策定・運用等を推進

4. 有明アーバンスポーツパークの計画の目的及び内容

4.1 目的

本施設は、大会組織委員会が東京2020大会時のオリンピックの自転車競技（BMXフリースタイル、BMXレーシング）、スケートボード（パーク、ストリート）会場として必要な仮施設¹の整備を実施した。

4.2 内容

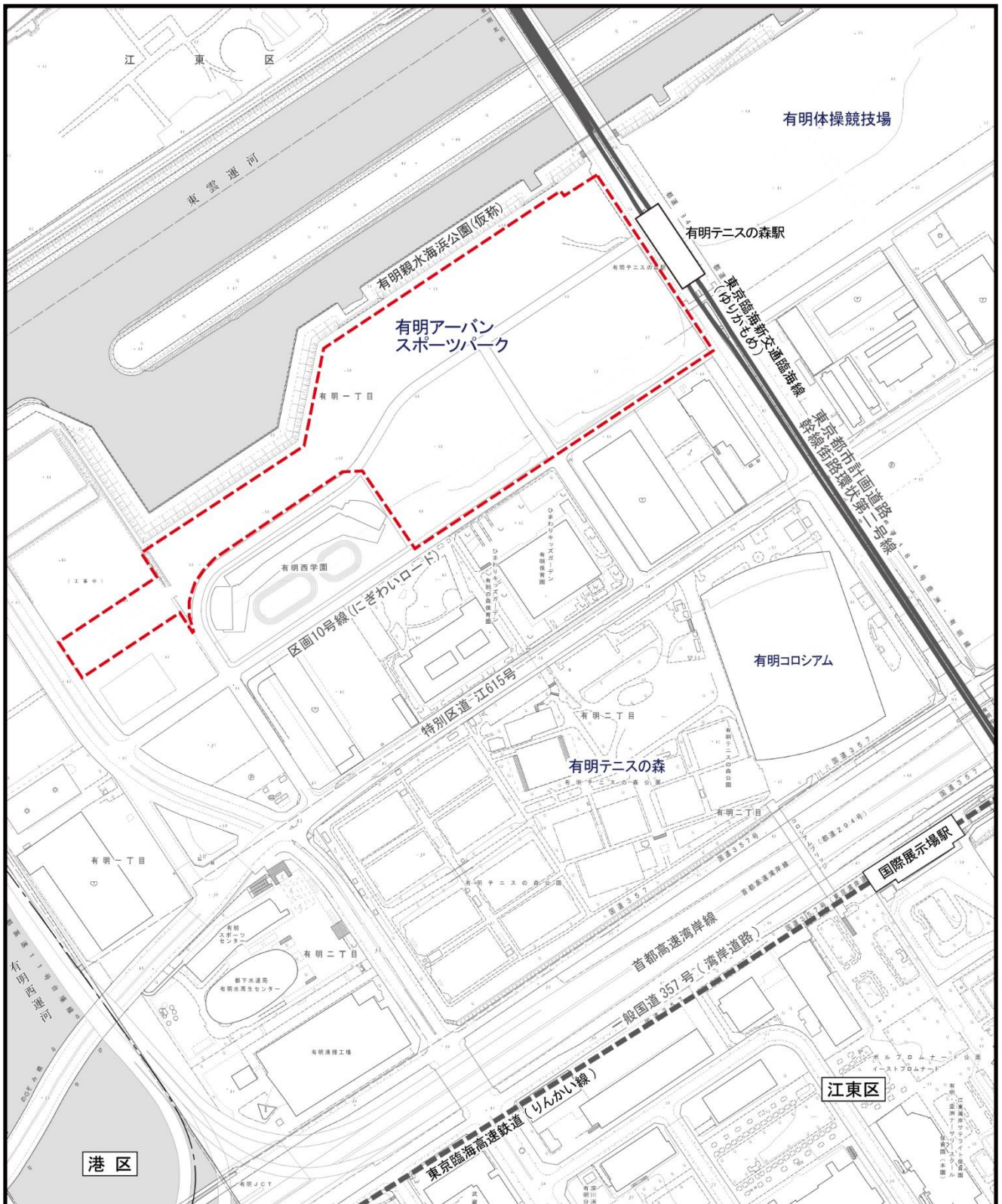
4.2.1 位置

本事業を実施する範囲（以下「計画地」という。）の位置は、図4.2-1及び写真4.2-1に示すとおり、東京都江東区有明一丁目にあり、敷地面積は約97,000m²である。

計画地は、有明北地区埋立整備事業として2000年度から2005年度に埋め立てられた埋立地であり、「東京港第8次改訂港湾計画」（平成26年12月 東京都）において主に都市機能用地とされているほか、計画地北側は、有明親水海浜公園計画区域となっている。また、計画地の東側には、オリンピックの体操、パラリンピックのボッチャのための有明体操競技場が整備され、計画地の南側には、オリンピックのテニス、パラリンピックの車いすテニスの会場となった有明テニスの森が存在する。

¹ 本施設は、全て仮施設として整備し、東京2020大会後には自転車競技エリアの施設は撤去・現状回復が行われるが、スケートボード競技エリアの施設については、レガシーとして、今後有効活用する方向で検討が進められている。

4. 有明アーバンスポーツパークの計画の目的及び内容



凡例

- 計画地
- 区界
- 東京臨海新交通臨海線(ゆりかもめ)
- 東京臨海高速鉄道(りんかい線)



Scale 1:6,000

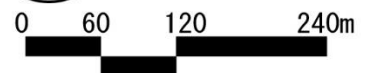


図 4.2-1 位置図

4. 有明アーバンスポーツパークの計画の目的及び内容



©NTT空間情報株式会社(2018年4月撮影)

凡 例

- 計画地
- 区界
- 東京臨海新交通
臨海線(ゆりかもめ)
- 東京臨海高速鉄道
(りんかい線)



Scale 1:6,000

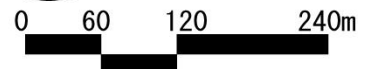


写真 4.2-1 計画地周辺の航空写真

4.2.2 事業の基本計画

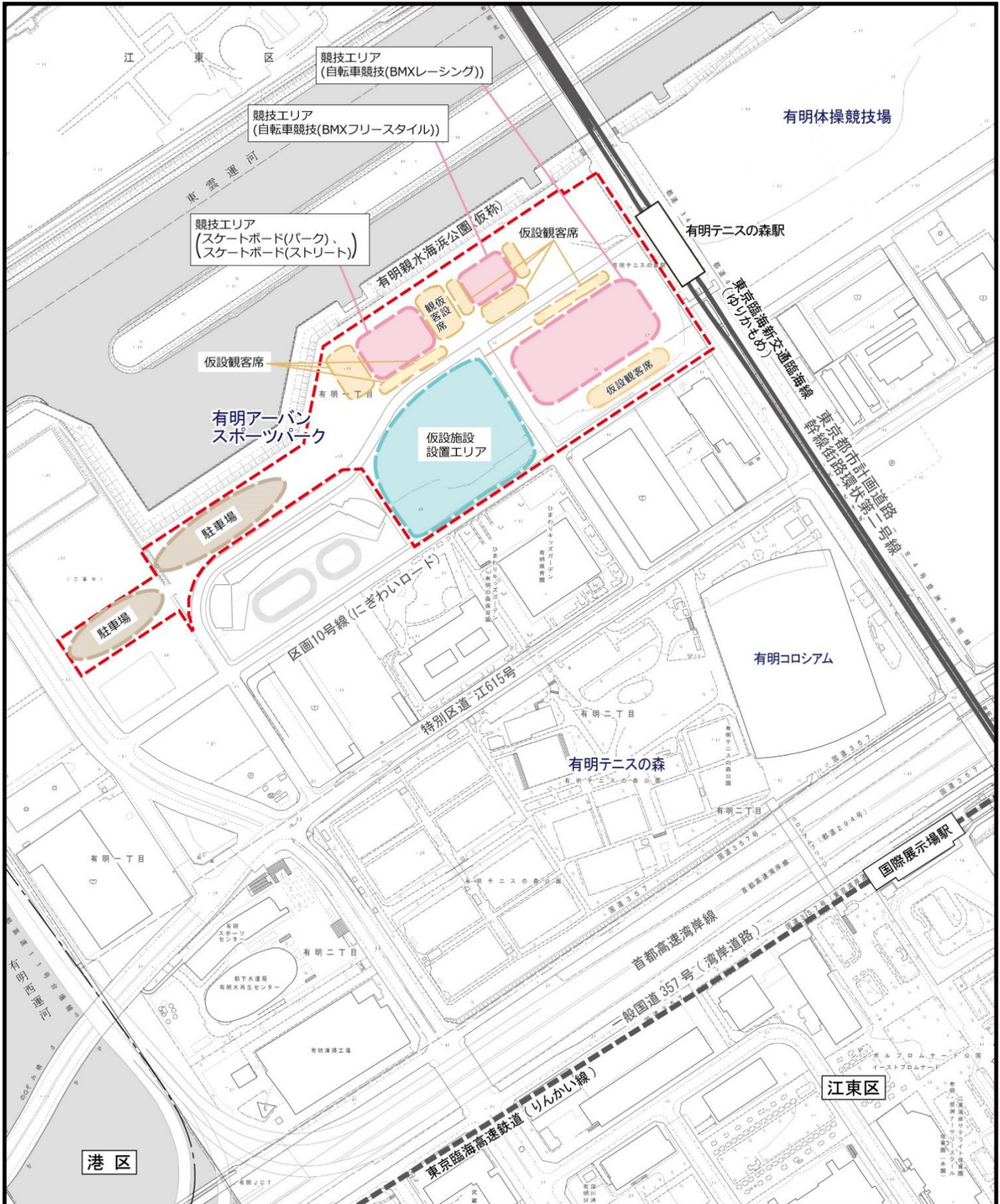
大会時の配置図は、図 4.2-2 に示すとおりである。計画地内に自転車競技（BMX フリースタイル、BMX レーシング）、スケートボード（パーク、ストリート）の4つの競技エリアを配置し、各競技エリアの周囲に仮設観客席（最大で高さ約 18.3m）を整備した。また、大会の運営のため、観客、アスリートやメディア関係等の施設として、敷地内のオープンスペースにプレハブやテント等の仮設施設を配置するほか、計画地の西側に大会関係者用の駐車場を配置した。

各競技エリアの写真は、写真 4.2-2(1)～(3)に示すとおりである。

主な仮設施設である仮設観客席²の断面図は、図 4.2-3(1)～(3)に示すとおりである。仮設観客席の設置予定座席数は、自転車競技（BMX レーシング）が 5,000 席、自転車競技（BMX フリースタイル）が 3,000 席、スケートボード（パーク、ストリート）が 7,000 席であった。なお、自転車競技（BMX フリースタイル）では、観客席の 3,000 人に立ち見の 3,600 人を加えた 6,600 人が競技観戦する計画であった。

² 仮設観客席については、建築基準法第85条第5項の規定に基づき、仮設建築物の建築許可申請を行い、許可を受けた上で、建築確認申請の手続きを経て着工した。なお、当該許可は、特定行政庁が安全上、防火上及び衛生上支障がないと認める場合に限って行われる。

4. 有明アーバンスポーツパークの計画の目的及び内容



凡例

- 計画地
- 区界
- 東京臨海新交通
臨海線(ゆりかもめ)
- 東京臨海高速鉄道
(りんかい線)



Scale 1:6,000

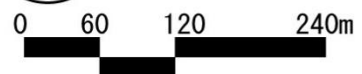


図 4.2-2 配置図

4. 有明アーバンスポーツパークの計画の目的及び内容



写真 4. 2-2(1) 自転車競技 (BMX フリースタイル) (2021 年 7 月)



写真 4. 2-2(2) 自転車競技 (BMX レーシング) (2021 年 7 月)

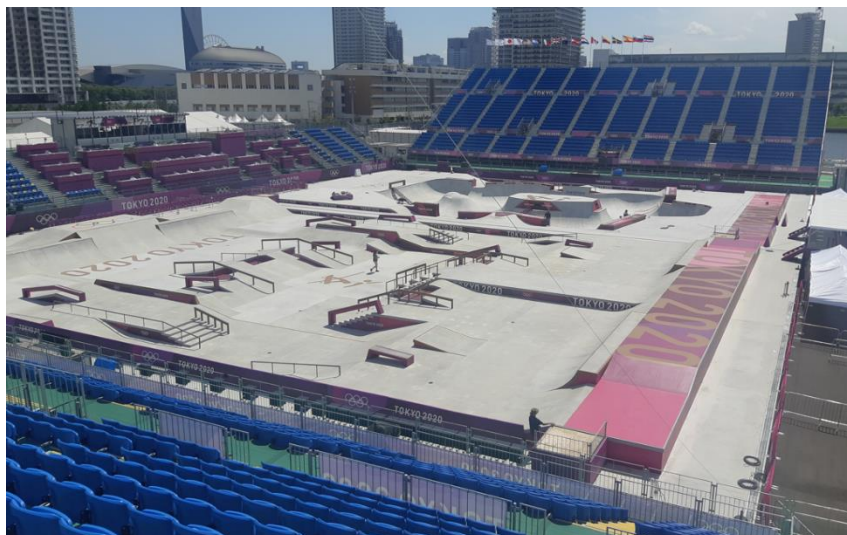


写真 4. 2-2(3) スケートボード (パーク、ストリート) (2021 年 7 月)



図 4.2-3(1) 断面図 (自転車競技 (BMX フリースタイル))

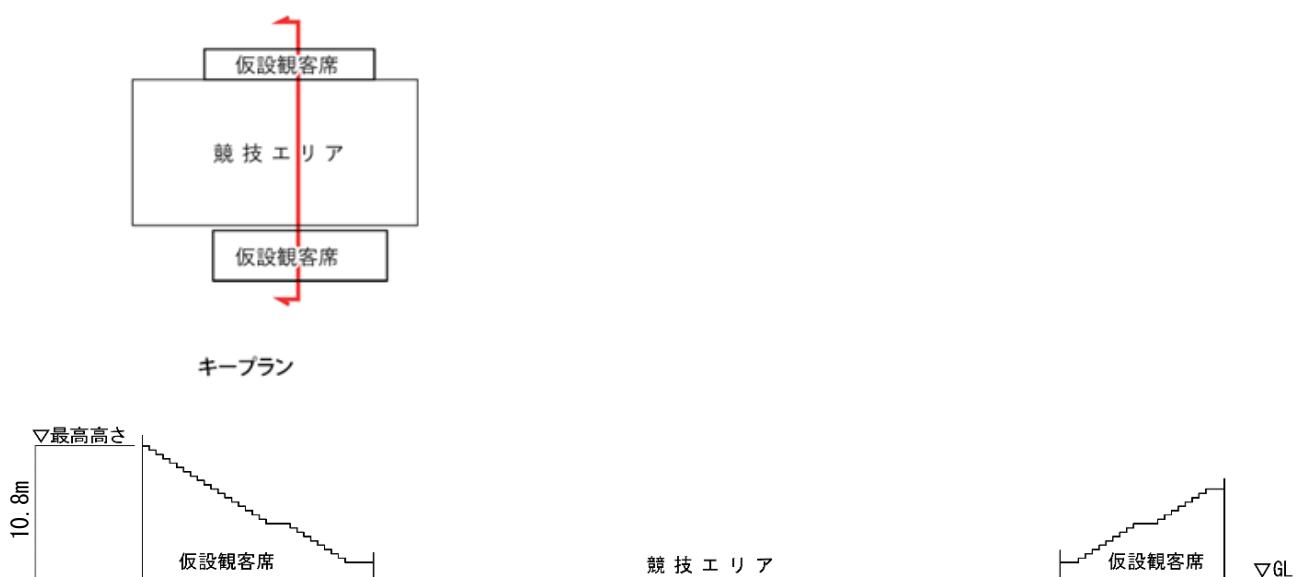


図 4.2-3(2) 断面図 (自転車競技 (BMX レーシング))

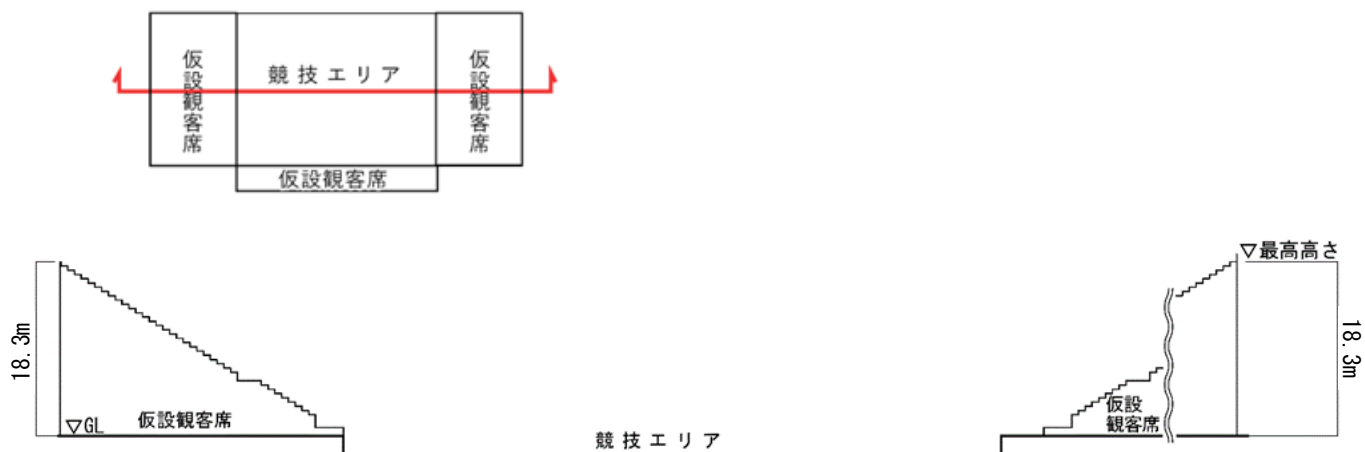


図 4.2-3(3) 断面図 (スケートボード (パーク、ストリート))

4.2.3 施工計画

(1) 施工計画

1) 工事工程

工事工程は、表 4.2-1 に示すとおりである。

東京 2020 大会前の仮施設整備については、2019 年に着工し、2020 年 7 月まで行った。また、東京 2020 大会後の仮施設の解体工事は、大会後から 2022 年 3 月までの 7 か月を見込む計画である。

表 4.2-1 工事工程

工種/工事月	2019 年			2020 年				2021 年				2022 年
	3	6	9	12	15	18	21	24	27	30	33	36
競技エリア工事												
その他仮設工事												
解体工事												

注) 大会前の点線の工事工程は、先行工事（電源等のインフラ整備）を示す。

2) 施工方法の概要

ア. 競技エリア工事

計画地に隣接する有明体操競技場整備に伴う建設発生土を有明アーバンスポーツパーク会場に運び込んでおり、自転車競技（BMX レーシング）の競技エリアの基礎材料として使用して、コース造成を行った。

自転車競技（BMX フリースタイル）の競技エリアは、単管とベニヤ板で組んだステージの上に、競技で使用するパーツ（ランプ等）を設置して構築した。

スケートボード（パーク）の競技エリアは現状地盤を約 3m 掘削し、コンクリート舗装を敷設して整備した。また、スケートボード（ストリート）は現状地盤を約 1.5m 掘削し、コンクリート舗装を敷設して整備した。

イ. その他仮設工事

その他の仮施設として、観客席、プレハブ、テント、ユニットハウス、セキュリティフェンス、大型映像装置架台、デッキ及びスロープの設置や仮設駐車場整備等を行った。

ウ. 解体工事

自転車競技エリアの施設については、撤去及び現状回復を行い、スケートボード競技エリアの施設については、レガシーとして、今後有効活用する方向で検討が進められている。

3) 工事用車両

工事用車両の走行に伴う沿道環境への影響を極力小さくするため、工事用車両は、主に首都高速湾岸線及び一般国道 357 号（湾岸道路）を利用し、東京都市計画道路幹線街路環状第二号線、都道 304 号日比谷豊洲埠頭東雲町線（有明通り）、都道 484 号豊洲有明線を通り、計画地へ出入場した。大会後の工事用車両の出入り台数は大型車 20 台/16h、小型車 34 台/16h の合計 54 台/16h あり、大型車は 9～12 時台に多く出入りしていた。また、都道 304 号日比谷豊洲埠頭東雲町線（有明通り）の交通量は、大型車 3,473 台/16h、小型車 9,767 台/16h の合計 13,240 台

4. 有明アーバンスポーツパークの計画の目的及び内容

/16hであった。出入り車両台数は、大会前のフォローアップ調査における大型車 6 台/16h、小型車 7 台/16h の合計 13 台/16h を上回ったものの、都道 304 号日比谷豊洲埠頭東雲町線（有明通り）の交通量は、大型車 4,691 台/16h、小型車 9,398 台/16h の合計 14,089 台/16h を下回っており、周辺交通量に対して大きな影響を及ぼしていないものとする。

4) 建設機械

各工種において使用する主な建設機械は、表 4.2-2 に示すとおりである。

工事に使用する建設機械は、周辺環境への影響に配慮して、排出ガス対策型建設機械（第 2 次基準値以上）及び低騒音型の建設機械を積極的に採用するとともに、不要なアイドリングの防止に努める等、排出ガスの削減及び騒音の低減に努めた。

表4.2-2 主な建設機械

工 種	主な建設機械
競技エリア工事	ブルドーザ、バックホウ
その他仮設工事	ラフタークレーン、バックホウ
解体工事	ラフタークレーン、バックホウ

5) 工事中の廃棄物等処理計画

建設工事に伴い発生する建設廃棄物は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和 45 年法律第 137 号）、資源の有効な利用の促進に関する法律（平成 3 年法律第 48 号）、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成 12 年法律第 104 号）等に基づき、再生利用可能な建設廃棄物については積極的に再資源化に努め、再生利用が困難なものについては適切な処理を行っている。また、工事に伴う建設発生土は、工事間での利用調整、または受入基準への適合を確認の上で、建設発生土を再利用する施設へ運搬して再利用を図っている。

なお、仮設施設のプレハブ、テント等の資材等は極力リースで調達し、大会後の仮設施設の解体工事については、仮設施設の資材等を可能な限り再利用している。

4. 有明アーバンスポーツパークの計画の目的及び内容

(2) 環境保全に関する計画等への配慮の内容

本事業にかかわる主な環境保全に関する上位計画としては、「東京都環境基本計画」、「東京都自動車排出窒素酸化物及び自動車排出粒子状物質総量削減計画」、「江東区環境基本計画」等がある。環境保全に関する計画等への配慮事項は、表 4.2-3(1)及び(2)に示すとおりである。

表4.2-3(1) 環境保全に関する計画等への配慮の内容

計画等の名称	計画等の概要	本事業で配慮した事項
東京都環境基本計画 (平成28年3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界一の環境先進都市・東京」の実現 ◆3R・適正処理の促進と「持続可能な資源利用」の推進 ◆快適な大気環境、良質な土壌と水循環の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・規制速度を遵守した。 ・工事用車両の走行ルートは、沿道環境への配慮のため、沿道に住居等が比較的存在しない湾岸道路等を極力利用した。
東京都自動車排出窒素酸化物及び自動車排出粒子状物質総量削減計画 (平成25年7月)	<ul style="list-style-type: none"> ・低公害・低燃費車の普及促進、エコドライブの普及促進、交通量対策、交通流対策、局地汚染対策の推進等 	<ul style="list-style-type: none"> ・規制速度を遵守した。 ・工事用車両の走行ルートは、沿道環境への配慮のため、沿道に住居等が比較的存在しない湾岸道路等を極力利用した。
東京都資源循環・廃棄物処理計画 (平成28年3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・計画目標1 資源ロスの削減 ・計画目標2 「持続可能な調達」の普及 ・計画目標3 循環的利用の促進と最終処分量の削減 ・計画目標4 適正かつ効率的な処理の推進 ・計画目標5 災害廃棄物の処理体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削工事に伴い発生する建設発生土は、工事間での利用調整、または受入基準への適合を確認し、建設発生土を再利用する施設へ運搬し、再利用を図っている。 ・競技エリアのうち、BMXフリースタイルのステージ等はリース品を活用することにより、解体工事に伴う建設廃棄物の発生量を削減している。 ・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(平成12年法律第104号)に基づく特定建設資材廃棄物については現場内で分別解体を行い、再資源化を行っている。 ・建設廃棄物は、「東京都建設リサイクルガイドライン」等に基づき、発生量の削減、現場内での分別、再利用等により、工事現場外への搬出の抑制に努めている。 ・建設混合廃棄物については、可能な限りの分別を行い、建設混合廃棄物としての排出量を減らすよう努力している。 ・再利用できないものは、運搬・処分の許可を得た業者に委託して処理・処分を行い、その状況は manifests により確認している。
東京都建設リサイクル推進計画 (平成28年4月)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート塊等を活用する ・建設発生木材を活用する ・建設泥土を活用する ・建設発生土を活用する ・廃棄物を建設資材に活用する ・建設グリーン調達を推進する ・建築物等を長期使用する 	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削工事に伴い発生する建設発生土は、工事間での利用調整、または受入基準への適合を確認し、建設発生土を再利用する施設へ運搬し、再利用を図っている。 ・競技エリアのうち、BMXフリースタイルのステージ等はリース品を活用することにより、解体工事に伴う建設廃棄物の発生量を削減している。 ・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(平成12年法律第104号)に基づく特定建設資材廃棄物については現場内で分別解体を行い、再資源化を行っている。 ・建設廃棄物は、「東京都建設リサイクルガイドライン」等に基づき、発生量の削減、現場内での分別、再利用等により、工事現場外への搬出の抑制に努めている。 ・建設混合廃棄物については、可能な限りの分別を行い、建設混合廃棄物としての排出量を減らすよう努力している。 ・再利用できないものは、運搬・処分の許可を得た業者に委託して処理・処分を行い、その状況は manifests により確認している。

表4. 2-3(2) 環境保全に関する計画等への配慮の内容

計画等の名称	計画等の概要	本事業で配慮した事項
江東区環境基本計画 (平成27年3月)	<p>本計画では、施策の体系として、以下の6つの柱を示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化・エネルギー対策の推進～KOTO 低炭素プラン～ ・循環型社会の形成 ・自然との共生 ・環境に配慮した快適なまちづくりの推進 ・安全・安心な生活環境の確保 ・環境教育及びパートナーシップの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用車両の走行ルートは、有明北地区の他の会場等の建設も踏まえ、交通渋滞による影響を軽減するため、沿道に住居等が比較的存在しない湾岸道路等を極力利用した。 ・競技エリアのうち、BMXフリースタイルのステージ等はリース品を活用することにより、解体工事に伴う建設廃棄物の発生量を削減している。 ・掘削工事に伴い発生する建設発生土は、工事間での利用調整、または受入基準への適合を確認し、建設発生土を再利用する施設へ運搬し、再利用を図っている。 ・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(平成12年法律第104号)に基づく特定建設資材廃棄物については現場内で分別解体を行い、再資源化を行っている。 ・建設廃棄物は、「東京都建設リサイクルガイドライン」等に基づき、発生量の削減、現場内での分別、再利用等により、工事現場外への搬出の抑制に努めている。 ・建設混合廃棄物については、可能な限りの分別を行い、建設混合廃棄物としての排出量を減らすよう努力している。 ・再利用できないものは、運搬・処分の許可を得た業者に委託して処理・処分を行い、その状況はマニフェストにより確認している。

4.3 有明アーバンスポーツパークの計画の策定に至った経緯

有明アーバンスポーツパークは、立候補ファイル時点では、有明BMXコースとしてオリンピックの自転車競技（BMX）の会場として利用される計画としていた。

組織委員会は、2014年6月、東京都とともに会場計画の見直しを行うことを表明し、レガシーや都民生活への影響、整備コストの視点から、新規恒久施設の見直しを含む、会場計画全体の見直しに着手した。また、2016年8月のIOC総会において、スケートボードを含む追加種目が決定した。その後、IOCや国際競技団体（IF）のサポートの下、さらなる見直しを進め、2017年2月に有明BMXコースが競技会場として決定し、2018年5月2日のIOC理事会において、東京2020大会の全ての競技会場が決定した。

2018年10月23日の組織委員会の理事会において、本会場の名称は「有明BMXコース」から「有明アーバンスポーツパーク」へと変更されることについて、IOCの承認が得られ、決定したことが報告された。

5. 調査結果の概略

本フォローアップ調査は、大会開催後の時点における「廃棄物」、「交通安全」の調査結果である。調査結果の概略は、表 5-1 に示すとおりである。

表 5-1 調査結果の概略

項目	調査結果の概略
1. 廃棄物	<p>ア. 競技エリア工事に伴う廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等</p> <p>競技エリア工事及び解体工事（競技エリアの原状回復）の建設発生土は、工事間での利用調整、または受入基準への適合を確認の上で、建設発生土を再利用する施設へ運搬し再利用を図り、2022年1月末時点での排出量の合計は約24,400m³、有効利用率は100%であり、工事完了後においても、予測結果の約37,400m³を下回るものとする。今後、発生が見込まれる建設発生土も同様に全量有効利用を行う予定である。</p> <p>フォローアップ調査における建設廃棄物の発生量は、アスファルト・コンクリート塊は予測結果を上回り、コンクリート塊及び建設混合廃棄物は下回っていた。アスファルト・コンクリート塊は、外構の表層のアスファルト材等の解体により予測結果を上回る量が発生した。</p> <p>また、建設発生木材A、金属くず、廃プラスチック、廃石膏ボード、ガラスくず及び陶磁器くずは、スロープや設置物の内装等により、その他がれき類は、計画地に広く敷いた舗装用の砕石等の解体によるものであり、計画段階では詳細が決まっていなかったことから発生した。</p> <p>発生する建設廃棄物については、分別収集し、再利用可能なものについては、再利用を図ることにより、「東京都建設リサイクル推進計画」に示される再資源化率の達成に努めた。</p> <p>建設発生土及び建設廃棄物ともに予測結果に対して増減はあるものの、その全量が再利用・再資源化されている。また、建設発生木材A、金属くず、廃プラスチック、廃石膏ボード、ガラスくず及び陶磁器くず、その他がれき類は、予測はできなかったものの、全量が再資源化されている。</p>
2. 交通安全	<p>ア. 東京 2020 大会の実施に伴う、会場等の周辺及び会場等までのアクセス経路における歩車動線の分離の向上又は低下等、交通安全の変化の程度</p> <p>工事用車両の走行ルートは、ほとんどがマウントアップ形式の歩道や横断防止柵等により歩道と車道が分離されていた。計画地南東側の有明テニスの森東交差点及びかえつ学園西交差点において、工事用車両の走行ルートと通学路が交差するが、歩行者用の信号と横断歩道が整備されている。</p> <p>工事用車両の走行にあたっては、工事用車両の出入口には交通整理員を配置し、計画地周辺の利用者も含めた一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮するほか、工事用車両運転者に対して安全走行を指導し、徹底した。また、有明西学園に面する計画地南側の区画10号線（にぎわいロード）や通学路に指定されている特別区道江615号及び江616号については利用せず、工事用車両の出入口についても東京都市計画道路幹線街路環状第二号線側に限定した。特に、有明西学園をはじめとする周辺教育施設や保育園の児童の登下校時間や登降園時間（主に7:00～8:30及び14:00～18:00）においては、一時停止等の歩行者の安全確認を徹底し、登校時間（7:30～8:30）において都道304号日比谷豊洲埠頭東雲線（有明通り）のかえつ学園西交差点は利用することはなかった。</p> <p>以上のことから、予測結果とフォローアップ調査結果は概ね一致する。</p>

6. フォローアップの実施者

[実施者]

名 称：東京都

代表者：東京都知事 小池 百合子

所在地：東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

7. その他

7.1 東京 2020 大会に係る実施段階環境アセスメント及びフォローアップの全対象事業についての実施段階環境アセスメント及びフォローアップの経過

有明アーバンスポーツパークの実施段階環境アセスメントの経過は、表 7.1-1 に示すとおりである。
また、フォローアップの進捗状況は、表 7.1-2 に示すとおりである。

表 7.1-1 有明アーバンスポーツパークの実施段階環境アセスメントの経過

実施段階環境アセスメントの経過	
環境影響評価調査計画書が公表された日	平成 26 年 3 月 28 日
意見を募集した日	平成 26 年 3 月 28 日～平成 26 年 4 月 16 日
都民の意見	82 件 ^{注)}
調査計画書審査意見書が送付された日	平成 26 年 5 月 29 日
環境影響評価書案が公表された日	平成 31 年 1 月 10 日
意見を募集した日	平成 31 年 1 月 10 日～平成 31 年 2 月 8 日
都民の意見	1 件
環境影響評価書案審査意見書が送付された日	平成 31 年 3 月 19 日
環境影響評価書が公表された日	平成 31 年 4 月 25 日
フォローアップ計画書が公表された日	平成 31 年 4 月 26 日
フォローアップ報告書(大会開催前)が公表された日	令和 2 年 1 月 14 日
フォローアップ報告書(大会開催後)が公表された日	令和 4 年 2 月 15 日

注) 環境影響評価調査計画書は、都内の全会場等を対象として、意見募集を実施した。

7.2 調査等を実施した者の氏名及び住所並びに調査等の全部又は一部を委託した場合にあっては、その委託を受けた者の氏名及び住所

[作成者]

名 称：東京都

代表者：東京都知事 小池 百合子

所在地：東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

[受託者]

名 称：日本工営株式会社

代表者：代表取締役社長 新屋 浩明

所在地：東京都千代田区麴町5丁目4番地

6. フォローアップの実施者
7. その他

表 7.1-2 フォローアップの進捗状況（東京 2020 大会の開催前及び開催後）

年・月	2019年度(令和元年度)												2020年度(令和2年度)												2021年度(令和3年度)												2022年度(令和4年度)														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月											
工事及び調査内容	工事着工からの月数																																																		
競技エリア工事	[黒塗り]																																																		
その他仮設工事	[黒塗り]																																																		
解体工事	[黒塗り]																																																		
有 明 ア ン ス ポ ッ ト ン グ 工 程	大気等	大会の開催前	工事用車両の走行	○ → [黒塗り]																																															
		大会の開催後	ミティゲーション	● → [黒塗り]																																															
	騒音・振動	大会の開催前	工事用車両の走行	○ → [黒塗り]																																															
		大会の開催後	ミティゲーション	● → [黒塗り]																																															
	廃棄物	大会の開催前	廃棄物の排出量及び再利用量等	● → [黒塗り]																																															
		大会の開催後	ミティゲーション	● → [黒塗り]																																															
	交通渋滞	大会の開催前	交通量及び交通流の変化	○ → [黒塗り]																																															
		大会の開催後	ミティゲーション	● → [黒塗り]																																															
	交通安全	大会の開催前	交通安全の変化	● → [黒塗り]																																															
		大会の開催後	ミティゲーション	● → [黒塗り]																																															
報告書提出時期			大会開催前報告書その1																																				大会開催後報告												

凡 例 ○ : 調査時点 ● : 継続調査 → : 報告

8. 調査の結果

8.1 大気等

8.1.1 調査事項

調査事項は、表 8.1-1 に示すとおりである。

表8.1-1 調査事項(東京2020大会の開催後)

区 分	調査事項
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用車両の走行ルートは、沿道環境への配慮のため、沿道に住居等が比較的存在しない湾岸道路等を極力利用する計画とする。 ・工事用車両に付着した泥土等が場外に飛散しないよう、必要に応じて出入口付近に洗車設備を設けてタイヤ等の洗浄を行う等、土砂・粉じんの飛散防止に努める計画としている。 ・低公害型の工事用車両を極力採用し、良質な燃料を使用するとともに、適切なアイドリングストップ等のエコドライブ及び定期的な整備点検の実施を周知・徹底する計画としている。 ・施工業者に対する指導を徹底し、工事用車両の過積載を防止する計画としている。 ・工事用車両が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める計画としている。 ・工事作業員の通勤に際しては、極力公共交通機関を利用する等通勤車両の削減に努めるよう指導する計画としている。 ・計画地からの工事用車両の出入りに際しては交通整理員を配置し、通勤をはじめ一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮するとともに、交通渋滞とそれに伴う大気汚染への影響の低減に努める。また、適宜清掃員を配置し、清掃に努める計画としている。 ・工事用車両の走行に伴う、教育施設や周辺市街地への影響を極力軽減するため、計画地周辺において同時期に行われる有明アリーナ、有明体操競技場、有明テニスの森（有明コロシアム改修工事を含む）及びIBC/MPCを含む周辺事業者との情報共有を行い、工事用車両が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める計画としている。 ・公衆の見やすい場所に現場事務所等の連絡先を表示し、大気汚染に関する住民からの問い合わせに対しては、迅速かつ適切な対応を行う。

8.1.2 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

8.1.3 調査手法

調査手法は、表 8.1-2 に示すとおりである。

表8.1-2 調査手法(東京2020大会の開催後)

	調査事項	工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度
調査期間	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とした。
調査地点	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。
調査手法	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

8.1.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.1-3(1)～(4)に示すとおりである。なお、大気等に関する問い合わせはなかった。

表8.1-3(1) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用車両の走行ルートは、沿道環境への配慮のため、沿道に住居等が比較的存在しない湾岸道路等を極力利用する計画とする。
実施状況	<p>道路沿道に及ぼす工事用車両の影響を可能な限り低減するため、工事用車両の走行にあたっては、極力、湾岸道路等の幹線道路を走行するよう朝礼等で指導した。</p> <div data-bbox="205 674 746 1084" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">朝礼の状況</p>
ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用車両に付着した泥土等が場外に飛散しないよう、必要に応じて出入口付近に洗車設備を設けてタイヤ等の洗浄を行う等、土砂・粉じんの飛散防止に努める計画としている。
実施状況	<p>工事用車両の出入口付近に、タイヤ洗浄設備を設置し、土砂・粉じんの飛散防止に努めた。工事用車両の退出にあたっては、目視により、タイヤ等への泥土の付着状況を確認した。</p> <div data-bbox="193 1361 735 1771" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">タイヤ洗浄の状況</p>

表8.1-3(2) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> ・低公害型の工事用車両を極力採用し、良質な燃料を使用するとともに、適切なアイドリングストップ等のエコドライブ及び定期的な整備点検の実施を周知・徹底する計画としている。
実施状況	<p>工事用車両には、可能な限り低燃費かつ低排出ガス認定自動車（ディーゼル重量車）を採用するとともに、許可を受けたガソリンスタンドで給油した。車両運転者に対しては、朝礼等によりエコドライブの徹底を指導するとともに、アイドリングストップ厳守に関わる掲示を行い、周知・徹底を図った。また、定期的な整備点検の徹底についても指導した。</p> <div data-bbox="189 495 732 904" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">車両アイドリングストップの掲示板</p>
ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> ・施工業者に対する指導を徹底し、工事用車両の過積載を防止する計画としている。
実施状況	<p>朝礼等で、工事用車両の過積載禁止の徹底を指導した。</p> <div data-bbox="193 1090 735 1500" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">朝礼の状況</p>

表8.1-3(3) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用車両が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める計画としている。
実施状況	
<p>工程会議等で施工計画を検討して工事工程を平準化し、計画的かつ効率的な運行管理に努めた。</p>	
	
<p>工程会議の様子</p>	
ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> ・工事作業員の通勤に際しては、極力公共交通機関を利用する等通勤車両の削減に努めるよう指導する計画としている。
実施状況	
<p>朝礼等で、工事作業員の通勤には公共交通機関を利用するよう指導した。</p>	
	
<p>朝礼の状況</p>	
ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地からの工事用車両の出入りに際しては交通整理員を配置し、通勤をはじめ一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮するとともに、交通渋滞とそれに伴う大気汚染への影響の低減に努める。また、適宜清掃員を配置し、清掃に努める計画としている。
実施状況	
<p>工事用車両の出入口には交通整理員を配置し、工事用車両の出入りに際して、歩行者や一般車両の通行に著しい支障を与えないよう努めた。また、適宜道路路面の状況を確認し、必要に応じて路面の清掃を行った。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="204 1662 746 2089">  </div> <div data-bbox="826 1662 1369 2089">  </div> </div>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 交通整理員の配置 路面清掃の状況 </div>	

表8.1-3(4) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用車両の走行に伴う、教育施設や周辺市街地への影響を極力軽減するため、計画地周辺において同時期に行われる有明アリーナ、有明体操競技場、有明テニスの森（有明コロシアム改修工事を含む）及びIBC/MPCを含む周辺事業者との情報共有を行い、工事用車両が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める計画としている。
実施状況	<p>有明アリーナ、有明体操競技場、有明テニスの森及びIBC/MPC建設事業の情報確認、区立有明西学園につながる計画地南側のにぎわいロードにおける工事用車両の通行禁止、及び工事説明を適宜実施することにより、周辺市街地への影響を低減するように努めた。</p> <p>また、工程会議において、工事工程を調整することにより、工事用車両が一時的に集中することを防止した。</p> <div data-bbox="209 562 751 972" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">工程会議の様子</p>
ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆の見やすい場所に現場事務所等の連絡先を表示し、大気汚染に関する住民からの問い合わせに対しては、迅速かつ適切な対応を行う。
実施状況	<p>近隣からの相談窓口を設置し、連絡先等を掲示した。なお、大気等に関する問い合わせはなかった。</p> <div data-bbox="212 1176 751 1585" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">近隣窓口問合せ先掲示板</p>

8.2 騒音・振動

8.2.1 調査事項

調査事項は、表 8.2-1 に示すとおりである。

表8.2-1 調査事項(東京2020大会の開催後)

区 分	調査事項
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・規制速度を遵守する計画である。 ・工事用車両の走行ルートは、沿道環境への配慮のため、沿道に住居等が比較的存在しない湾岸道路等を極力利用する計画とする。 ・低公害型の工事用車両を極力採用し、適切なアイドリングストップ等のエコドライブ及び定期的な整備点検の実施を周知・徹底する。 ・資材の搬出入に際しては、走行ルートの検討、安全走行等により、騒音及び振動の低減に努める計画としている。 ・工事用車両が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める計画としている。 ・工事用車両の走行に伴う、教育施設や周辺市街地への影響を極力軽減するため、計画地周辺において同時期に行われる有明アリーナ、有明体操競技場、有明テニスの森（有明コロシアム改修工事を含む）及びIBC/MPCとの情報共有を行い、工事用車両が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める計画としている。 ・公衆の見やすい場所に現場事務所等の連絡先を表示し、騒音・振動に関する住民からの問い合わせに対しては、迅速かつ適切な対応を行う。

8.2.2 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

8.2.3 調査手法

調査手法は、表 8.2-2 に示すとおりである。

表8.2-2 調査手法(東京2020大会の開催後)

調査事項		工事用車両の走行に伴う 道路交通騒音	工事用車両の走行に伴う 道路交通振動
調査期間	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とした。	
調査地点	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。	
調査手法	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。	

8.2.4 調査結果

(1) 調査結果の内容




1) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.2-3(1)及び(2)示すとおりである。なお、騒音・振動に関する問合せはなかった。

表8.2-3(1) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション	・規制速度を遵守する計画である。
実施状況	
<p>朝礼等で、工事用車両運転者に対する交通法規の遵守の徹底を指導した。また、場内においても規制速度30km/hを定め、その遵守の徹底を指導した。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="204 607 746 1019">  </div> <div data-bbox="842 607 1385 1019">  </div> </div>	
<p style="text-align: center;">朝礼の状況 規制速度の看板</p>	
ミティゲーション	・工事用車両の走行ルートは、沿道環境への配慮のため、沿道に住居等が比較的存在しない湾岸道路等を極力利用する計画とする。
実施状況	
<p>道路沿道に及ぼす工事用車両の影響を可能な限り低減するため、工事用車両の走行にあたっては、極力、湾岸道路等の幹線道路を走行するよう朝礼等で指導した。</p>	
ミティゲーション	・低公害型の工事用車両を極力採用し、適切なアイドリングストップ等のエコドライブ及び定期的な整備点検の実施を周知・徹底する。
実施状況	
<p>工事用車両には、可能な限り自動車単体騒音規制（平成 10～13 年規制）に適合した車両を採用するとともに、定期的な整備点検の実施を指導した。</p> <p>朝礼等を通じて、アイドリングストップの厳守等、運転者へ指導を行うとともに、アイドリングストップ厳守に関わる掲示を行い、周知・徹底を図った。</p>	
<div style="text-align: center;">  </div>	
<p style="text-align: center;">車両アイドリングストップの掲示板</p>	

表8.2-3(2) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

<p>ミティゲーション</p>	<p>・資材の搬出入に際しては、走行ルートの検討、安全走行等により、騒音及び振動の低減に努める計画としている。</p>
<p>実施状況</p> <p>朝礼等を通じて、運転者には、走行ルートの限定及び安全走行に関して事前指導した。また、事前に搬入出車両台数及び時間帯を確認・調整することにより車両の集中を避け、平準化を図るとともに、騒音及び振動の低減に努めた。</p>	 <p style="text-align: center;">朝礼の状況</p>
<p>ミティゲーション</p>	<p>・工事用車両が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める計画としている。</p>
<p>実施状況</p> <p>工程会議等で施工計画を検討して工事工程を平準化し、計画的かつ効率的な運行管理に努めた。</p>	
<p>ミティゲーション</p>	<p>・工事用車両の走行に伴う、教育施設や周辺市街地への影響を極力軽減するため、計画地周辺において同時期に行われる有明アリーナ、有明体操競技場、有明テニスの森（有明コロシアム改修工事を含む）及びIBC/MPCとの情報共有を行い、工事用車両が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める計画としている。</p>
<p>実施状況</p> <p>有明アリーナ、有明体操競技場、有明テニスの森及びIBC/MPC建設事業の情報確認、区立有明西学園につながる計画地南側のにぎわいロードにおける工事車両の通行禁止及び工事説明を適宜実施することにより、周辺市街地への影響を低減するように努めた。</p> <p>また、工程会議において、工事工程を調整することにより、工事用車両が一時的に集中することを防止した。</p>	 <p style="text-align: center;">工程会議の様子</p>
<p>ミティゲーション</p>	<p>・公衆の見やすい場所に現場事務所等の連絡先を表示し、騒音・振動に関する住民からの問い合わせに対しては、迅速かつ適切な対応を行う。</p>
<p>実施状況</p> <p>近隣からの相談窓口を設置し、連絡先等を掲示した。なお、騒音・振動に関する問合せはなかった。</p>	 <p style="text-align: center;">近隣窓口問合せ先掲示板</p>

8.3 廃棄物

8.3.1 調査事項

調査事項は、表 8.3-1 に示すとおりである。

表8.3-1 調査事項(東京2020大会の開催前及び開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
予測条件の状況	・ 工事の実施状況
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掘削工事に伴い発生する建設発生土は、工事間で利用調整または受入基準への適合を確認の上、東京都建設発生土再利用センター等へ運搬して再利用を図る。 ・ 競技エリアのうち、BMXフリースタイルのステージ等はリース品を活用することにより、解体工事に伴う建設廃棄物の発生量を削減する。 ・ 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(平成12年法律第104号)に基づく特定建設資材廃棄物については現場内で分別解体を行い、再資源化を行う。 ・ 建設廃棄物は、「東京都建設リサイクルガイドライン」等に基づき、発生量の削減、現場内での分別、再利用等により、工事現場外への搬出の抑制に努める。 ・ 建設混合廃棄物については、可能な限りの分別を行い、建設混合廃棄物としての排出量を減らすよう努力する。 ・ 再利用できないものは、運搬・処分の許可を得た業者に委託して処理・処分を行い、その状況はマニフェストにより確認する。 ・ 建設廃棄物の発生量を低減するような施工計画を検討し、施工業者に遵守させる。 ・ 資材の搬入、建設発生土及び建設廃棄物の搬出に当たっては、あらかじめ再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を作成し、実施状況は、再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書にて記録・保存を行う。 ・ 施設整備に当たっては、東京都「持続可能な資源利用」に向けた取組方針も踏まえ、リサイクル材料を積極的に使用する。

8.3.2 調査地域

調査地域は、計画地とした。

8.3.3 調査手法

調査手法は、表 8.3-2 に示すとおりである。

表8.3-2 調査手法(東京2020大会の開催前及び開催後)

	調査事項	施設の建設に伴う廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
	調査時点	工事の施工中とした。
調査期間	予測した事項	工事中の適宜とした。
	予測条件の状況	工事中の適宜とした。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とした。
調査地点	予測した事項	計画地とした。
	予測条件の状況	計画地とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とした。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とした。
	予測条件の状況	関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理による方法とした。

8.3.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項

ア. 競技エリア工事に伴う廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等

工事に伴う建設発生土の発生量は、表 8.3-3 に示すとおり、大会前の競技エリア工事で約 17,200m³、大会後の解体工事（競技エリアの原状回復）における 2022 年 1 月末時点での実績値は約 7,200m³であり、工事完了時には約 15,500m³を予定している。

建設発生土の有効利用量は、大会前の競技エリア工事で約 17,200m³、大会後の解体工事（2022 年 1 月末時点）は、約 7,200m³であり、工事間での利用調整、または受入基準への適合を確認の上で、建設発生土を再利用する施設へ運搬し再利用を図った。有効利用率は 100%であった。今後、発生が見込まれる建設発生土も同様に全量有効利用を行う予定である。

表 8.3-3 建設発生土の発生量及び有効利用量

工事内容	種類	発生量	有効利用量	有効利用率
競技エリア工事	建設発生土	約 17,200m ³	約 17,200m ³	100%
解体工事 (競技エリアの原状回復)		約 7,200m ³ (約 15,500m ³)	約 7,200m ³	100%

注 1) 解体工事は、2022 年 3 月まで継続中。

注 2) 解体工事の発生量の上段の数値は、2022 年 1 月末時点での実績値、下段の () の数値は工事完了時の計画値。

注 3) 有効利用量及び有効利用率は、2022 年 1 月末時点での実績値。

大会後の解体工事（競技エリアの原状回復）に伴い生じる建設廃棄物の発生量は、表 8.3-4 に示すとおりである。

建設廃棄物の発生量は、2022 年 1 月末時点において、アスファルト・コンクリート塊が約 4,400t、コンクリート塊が約 2,500t、建設混合廃棄物が約 10t、建設発生木材 A が約 290t、金属くずが約 280t、廃プラスチックが約 100t、廃石膏ボードが約 40t、ガラス、コンクリート及び陶磁器くずが約 20t、その他がれき類が約 17,700t の合計約 25,340t であり、その全量が場外に搬出され再資源化された。建設廃棄物の再資源化等率は 100%であった。

競技エリアのうち、BMX フリースタイルのステージ等はリース品を活用したことにより、解体工事に伴う建設廃棄物の発生量を削減した。

表 8.3-4 建設廃棄物の種類ごとの発生量と再資源化等量（解体工事（競技エリアの原状回復））

廃棄物の種類	発生量 (t)	再資源化等量 (t)	再資源化等率 (%)
アスファルト・コンクリート塊	約 4,400	約 4,400	100
コンクリート塊	約 2,500 (約 3,000)	約 2,500	100
建設混合廃棄物	約 10	約 10	100
建設発生木材 A	約 290 (約 330)	約 290	100
金属くず	約 280	約 280	100
廃プラスチック（塩化ビニル管・継手を除く）	約 100	約 100	100
廃石膏ボード	約 40	約 40	100
ガラス、コンクリート及び陶磁器くず	約 20	約 20	100
その他がれき類	約 17,700 (約 22,220)	約 17,700	100
建設廃棄物（合計）	約 25,340	約 25,340	100

注 1) 解体工事は、2022 年 3 月まで継続中。

注 2) 発生量の上段の数字は、2022 年 1 月末時点での実績値、下段の（ ）の数値は終了時点の計画値。

注 3) 再資源化等量は再使用・再生利用・熱回収・減量化量、再資源化等率は再使用・再生利用・熱回収・減量化率を示す。2022 年 1 月末時点での実績値。

注 4) 発生量 (m³) は、「産業廃棄物の種類ごとの集計単位と重量換算係数（公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター）」に基づき、発生量 (t) に換算した値。

2) 予測条件の状況

ア. 工事の実施状況

工事の実施状況は、「4. 有明アーバンスポーツパークの計画の目的及び内容 4.2 内容 4.2.3 事業の基本計画 (1) 施工計画」(p. 11~12) に示すとおりである。

3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.3-5(1) 及び(2) に示すとおりである。なお、廃棄物に関する問合せはなかった。

表8.3-5(1) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催前及び開催後)

ミティゲーション	・掘削工事に伴い発生する建設発生土は、工事間で利用調整または受入基準への適合を確認の上、東京都建設発生土再利用センター等へ運搬して再利用を図る。
実施状況	掘削工事に伴い発生した建設発生土は、工事間で利用調整、受入基準への適合を確認し、建設発生土を再利用する施設へ運搬し、再利用を図っている。
ミティゲーション	・競技エリアのうち、BMX フリースタイルのステージ等はリース品を活用することにより、解体工事に伴う建設廃棄物の発生量を削減する。
実施状況	BMX フリースタイルのステージ等はリース品を活用し、解体工事に伴う建設廃棄物の発生量を削減した。
ミティゲーション	・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(平成 12 年法律第 104 号)に基づく特定建設資材廃棄物については現場内で分別解体を行い、再資源化を行う。
実施状況	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(平成 12 年法律第 104 号)に基づく特定建設資材廃棄物については現場内で分別解体し、再資源化を行っている。
ミティゲーション	・建設廃棄物は、「東京都建設リサイクルガイドライン」等に基づき、発生量の削減、現場内での分別、再利用等により、工事現場外への搬出の抑制に努める。
実施状況	建設廃棄物は、「東京都建設リサイクルガイドライン」等に基づき、発生量の削減、現場内での分別、再利用等によって工事現場外への搬出の抑制に努めている。競技エリアのうち、BMX フリースタイルのステージ等はリース品を活用したことにより、解体工事に伴う建設廃棄物の発生量を削減した。



建設副産物ステーション



建設廃棄物収集箇所



No.3

収集の状況

表8.3-5(2) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催前及び開催後)

ミティゲーション 実施状況	・建設混合廃棄物については、可能な限りの分別を行い、建設混合廃棄物としての排出量を減らすよう努力する。 建設混合廃棄物については、分別を行い、建設混合廃棄物の排出量を削減するよう努めている。				
ミティゲーション 実施状況	・再利用できないものは、運搬・処分の許可を得た業者に委託して処理・処分を行い、その状況はマニフェストにより確認する。 再利用できないものについては、運搬・処分の許可を得た業者に委託し、処理・処分し、その状況についてマニフェストによって確認している。				
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 1; margin-left: 20px;"> <p>電子マニフェスト用 受渡確認票</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 70%;">マニフェスト番号</td> <td style="width: 30%;">連絡番号1</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">氏名(フリガナ)</td> </tr> </table> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">マニフェスト</p>		マニフェスト番号	連絡番号1	氏名(フリガナ)	
マニフェスト番号	連絡番号1				
氏名(フリガナ)					
ミティゲーション 実施状況	・建設廃棄物の発生量を低減するような施工計画を検討し、施工業者に遵守させる。				
<p>建設廃棄物の発生量を低減する施工とし、朝礼での全体講習により、廃棄物の更なる発生抑制の指導を徹底し、廃棄物の低減化に努めている。競技エリアのうち、BMX フリースタイルのステージ等はリース品を活用したことにより、解体工事に伴う建設廃棄物の発生量を削減した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p style="text-align: center;">朝礼の状況</p> </div> <div style="flex: 1;">  </div> </div>					
ミティゲーション 実施状況	・資材の搬入、建設発生土及び建設廃棄物の搬出に当たっては、あらかじめ再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を作成し、実施状況は、再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書にて記録・保存を行う。				
<p>資材の搬入、建設発生土及び建設廃棄物の搬出にあたり、事前に再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を作成した。実施状況については、再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書にて記録・保存を行っている。</p>					
ミティゲーション 実施状況	・施設整備に当たっては、東京都「持続可能な資源利用」に向けた取組方針も踏まえ、リサイクル材料を積極的に使用する。				
<p>施設整備に当たっては、東京都「持続可能な資源利用」に向けた取組方針を踏まえ、再生クラッシュラン、再生加熱アスファルト等のリサイクル材料を積極的に使用した。</p>					

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 競技エリア工事に伴う廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等

建設発生土の予測結果とフォローアップ調査結果の比較は、表 8.3-6 に示すとおりである。

競技エリア工事及び解体工事（競技エリアの原状回復）の建設発生土は、工事間での利用調整、または受入基準への適合を確認の上で、建設発生土を再利用する施設へ運搬し再利用を図り、2022 年 1 月末時点での排出量の合計は約 24,400m³、有効利用率は 100%であり、工事完了後においても、予測結果の約 37,400m³を下回るものとする。今後、発生が見込まれる建設発生土も同様に全量有効利用を行う予定である。

表 8.3-6 建設発生土の発生量及び有効利用量

工事内容	予測結果			フォローアップ調査		
	発生量	有効利用量	有効利用率	発生量	有効利用量	有効利用率
競技エリア工事	約 29,400m ³	約 29,100m ³	99%	約 17,200m ³	約 17,200m ³	100%
解体工事 (競技エリアの 原状回復)	約 8,000m ³	約 7,900m ³	99%	約 7,200m ³ (約 15,500m ³)	約 7,200m ³	100%
合計	約 37,400m ³	約 37,000m ³	99%	約 24,400m ³ (約 32,700m ³)	約 24,400m ³	100%

注 1) フォローアップ調査の解体工事の発生量の上段の数値は、2022 年 1 月末時点での実績値、下段の（ ）の数値は工事完了時の計画値。

注 2) 有効利用量及び有効利用率は、2022 年 1 月末時点での実績値。

建設廃棄物の予測結果とフォローアップ調査結果の比較は、表 8.3-7 に示すとおりである。

フォローアップ調査における発生量は、アスファルト・コンクリート塊は予測結果を上回り、コンクリート塊及び建設混合廃棄物は下回っていた。アスファルト・コンクリート塊は、外構の表層のアスファルト材等の解体により予測結果を上回る量が発生した。

また、建設発生木材 A、金属くず、廃プラスチック、廃石膏ボード、ガラスくず及び陶磁器くずは、スロープや設置物の内装等により、その他がれき類は、計画地に広く敷いた舗装用の碎石等の除去によるものであり、計画段階では詳細が決まっていなかったことから発生した。

発生する建設廃棄物については、分別収集し、再利用可能なものについては、再利用を図ることにより、「東京都建設リサイクル推進計画」に示される再資源化率の達成に努めた。

建設発生土及び建設廃棄物ともに予測結果に対して増減はあるものの、その全量が再利用・再資源化されている。また、建設発生木材 A、金属くず、廃プラスチック、廃石膏ボード、ガラスくず及び陶磁器くず、その他がれき類は、予測はできなかったものの、全量が再資源化されている。

表 8.3-7 建設廃棄物の予測結果とフォローアップ調査結果の比較

廃棄物の種類	予測結果			フォローアップ調査		
	発生量 (t)	再資源化 等量 (t)	再資源化 等率 (%)	発生量 (t)	再資源化 等量 (t)	再資源化 等率 (%)
アスファルト・コン クリート塊	約 3,840	約 3,809	99	約 4,400	約 4,400	100
コンクリート塊	約 3,220	約 3,194	99	約 2,500 (約 3,000)	約 2,500	100
建設混合廃棄物	約 70	約 57	82	約 10	約 10	100
建設発生木材 A	-	-	-	約 290 (約 330)	約 290	100
金属くず	-	-	-	約 280	約 280	100
廃プラスチック (塩 化ビニル管・継手を 除く)	-	-	-	約 100	約 100	100
廃石膏ボード	-	-	-	約 40	約 40	100
ガラスくず及び陶 磁器くず	-	-	-	約 20	約 20	100
その他がれき類	-	-	-	約 17,700 (約 22,220)	約 17,700	100

注 1) 解体工事は、2022 年 3 月まで継続中。

注 2) フォローアップ調査の発生量の上段の数値は、2022 年 1 月末時点での実績値、下段の () の数値は終了時点の計画値。

注 3) 再資源化等量は再使用・再生利用・熱回収・減量化量、再資源化等率は再使用・再生利用・熱回収・減量化率を示す。2022 年 1 月末時点での実績値。

8.4 交通渋滞

8.4.1 調査事項

調査事項は、表 8.4-1 に示すとおりである。

表8.4-1 調査事項(東京2020大会の開催後)

区 分	調査事項
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用車両の走行ルートは、有明北地区の他の会場等の建設も踏まえ、交通渋滞による影響を軽減するため、沿道に比較的住居等が存在しない湾岸道路等を極力利用する計画とする。 ・ 工事用車両の集中稼働を行わないよう、可能な限り工事工程の平準化に努める計画である。 ・ 朝・夕の周辺交通量が多くなる時間帯には、極力工事用車両の走行を控える。 ・ 工事用車両の出入口には交通整理員を配置する予定とし、計画地周辺の車両の通行に支障を与えないように配慮する。 ・ 工事用車両の走行に当たっては、安全走行の徹底、市街地での待機や違法駐車等をすることがないように、運転者への指導を徹底する。 ・ 工事作業員の通勤に際しては、極力公共交通機関を利用する等通勤車両の削減に努めるよう指導する。 ・ 工事用車両の走行に伴う、教育施設や周辺市街地への影響を極力軽減するため、計画地周辺において同時期に行われる有明アリーナ、有明体操競技場、有明テニスの森（有明コロシアム改修工事を含む）及びIBC/MPCとの情報共有を行い、工事用車両が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める計画としている。

8.4.2 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

8.4.3 調査手法

調査手法は、表 8.4-2 に示すとおりである。

表8.4-2 調査手法(東京2020大会の開催後)

調査事項		工事用車両の走行に伴う交通渋滞の発生又は解消等、交通量及び交通流の変化の程度
調査期間	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とした。
調査地点	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。
調査手法	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とした。

8.4.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.4-3(1)～(3)に示すとおりである。なお、交通渋滞に関する問合せはなかった。

表8.4-3(1) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用車両の走行ルートは、有明北地区の他の会場等の建設も踏まえ、交通渋滞による影響を軽減するため、沿道に比較的住居等が存在しない湾岸道路等を極力利用する計画とする。
実施状況	<p>道路沿道に及ぼす工事用車両の影響を可能な限り低減するため、工事用車両の走行にあたっては、極力、湾岸道路等の幹線道路を走行するよう朝礼等で指導した。</p>
	
朝礼の状況	
ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用車両の集中稼働を行わないよう、可能な限り工事工程の平準化に努める計画である。
実施状況	<p>工程会議において、工事工程を調整することにより、工事用車両が一時的に集中することを防止した。</p>
	
工程会議の状況	

表8.4-3(2) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション 実施状況	・朝・夕の周辺交通量が多くなる時間帯には、極力工事用車両の走行を控える。 工程会議において、工事工程を調整することにより、工事用車両が周辺の一般交通量が多くなる朝・夕の時間帯に集中することを防止した。
<div data-bbox="197 349 727 748" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="365 763 563 792" style="text-align: center;">工程会議の状況</p>	
ミティゲーション 実施状況	・工事用車両の出入口には交通整理員を配置する予定とし、計画地周辺の車両の通行に支障を与えないように配慮する。
<p data-bbox="134 898 1461 958">工事用車両の出入口には交通整理員を配置し、工事用車両の出入りに際して、一般車両の通行に著しい支障を与えないように努めた。</p> <div data-bbox="189 1005 738 1406" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="365 1422 576 1451" style="text-align: center;">交通整理員の配置</p>	
ミティゲーション 実施状況	・工事用車両の走行に当たっては、安全走行の徹底、市街地での待機や違法駐車等を行うことがないよう、運転者への指導を徹底する。
<p data-bbox="134 1556 1461 1617">朝礼等で、工事用車両運転者に対する交通法規の遵守の徹底を指導した。また、場外での駐車禁止の徹底を指導した。</p> <div data-bbox="197 1664 727 2063" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="365 2078 536 2107" style="text-align: center;">朝礼の状況</p>	

表8.4-3(3) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> ・工事作業員の通勤に際しては、極力公共交通機関を利用する等通勤車両の削減に努めるよう指導する。
実施状況	
<p>朝礼等で、工事作業員の通勤には公共交通機関を利用するよう指導した。</p>	
	
<p style="text-align: center;">朝礼の状況</p>	
ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用車両の走行に伴う、教育施設や周辺市街地への影響を極力軽減するため、計画地周辺において同時期に行われる有明アリーナ、有明体操競技場、有明テニスの森（有明コロシアム改修工事を含む）及びIBC/MPCとの情報共有を行い、工事用車両が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める計画としている。
実施状況	
<p>有明アリーナ、有明体操競技場、有明テニスの森及びIBC/MPC建設事業の情報確認、また、工程会議において、工事工程の調整を行い、工事用車両が一時的に集中することを防止することにより、周辺市街地への影響を低減するように努めた。</p>	
	
<p style="text-align: center;">工程会議の様子</p>	

8.5 交通安全

8.5.1 調査事項

調査事項は、表 8.5-1 に示すとおりである。

表8.5-1 調査事項(東京2020大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・東京2020大会の実施に伴う、会場等の周辺及び会場等までのアクセス経路における歩車動線の分離の向上又は低下等、交通安全の変化の程度
予測条件の状況	・アクセス経路における歩車動線分離の状況
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用車両の走行ルートは、計画地までの歩行者の交通安全への配慮のため、極力、湾岸道路等を利用する。 ・工事用車両の走行ルートは、有明西学園に面する区画10号線（にぎわいロード）や通学路に指定されている特別区道 江615号及び江616号を利用せず、工事用車両の出入口についても東京都市計画道路幹線街路環状第二号線側に限定する。特に、有明西学園をはじめとする周辺教育施設や保育園の児童の登下校時間や登降園時間（主に7:00～8:30及び14:00～18:00）においては、一時停止等の歩行者の安全確認を徹底し、登校時間（7:30～8:30）において都道304号日比谷豊洲埠頭東雲線（有明通り）のかえつ学園西交差点は利用しない。 ・歩行者、自転車、一般車両等の優先、交差点進入時や右左折時における歩行者、自転車の安全確認について、工事用車両運転者に対する指導を徹底し、児童及びその保護者、その他歩行者の交通安全に配慮する。 ・工事用車両の出入口には交通整理員を配置する予定とし、計画地周辺の利用者も含めた一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮する。 ・工事用車両の走行にあたっては、安全走行を徹底する。 ・工事用車両の集中稼働を行わないよう、可能な限り工事工程の平準化に努める計画である。 ・工事用車両の走行に伴う、教育施設や周辺市街地への影響を極力軽減するため、計画地周辺において同時期に行われる有明アリーナ、有明体操競技場、有明テニスの森（有明コロシウム改修工事を含む）及びIBC/MPCを含む周辺事業者との情報共有を行い、工事用車両が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める計画としている。

8.5.2 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

8.5.3 調査手法

調査手法は、表 8.5-2 に示すとおりである。

表8.5-2 調査手法(東京2020大会の開催後)

	調査事項	アクセス経路における歩車動線の分離の向上又は低下等、交通安全の変化の程度
	調査時点	工事の施行中とした。
調査期間	予測した事項	工事中の適宜とした。
	予測条件の状況	工事中の適宜とした。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とした。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とした。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。

8.5.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

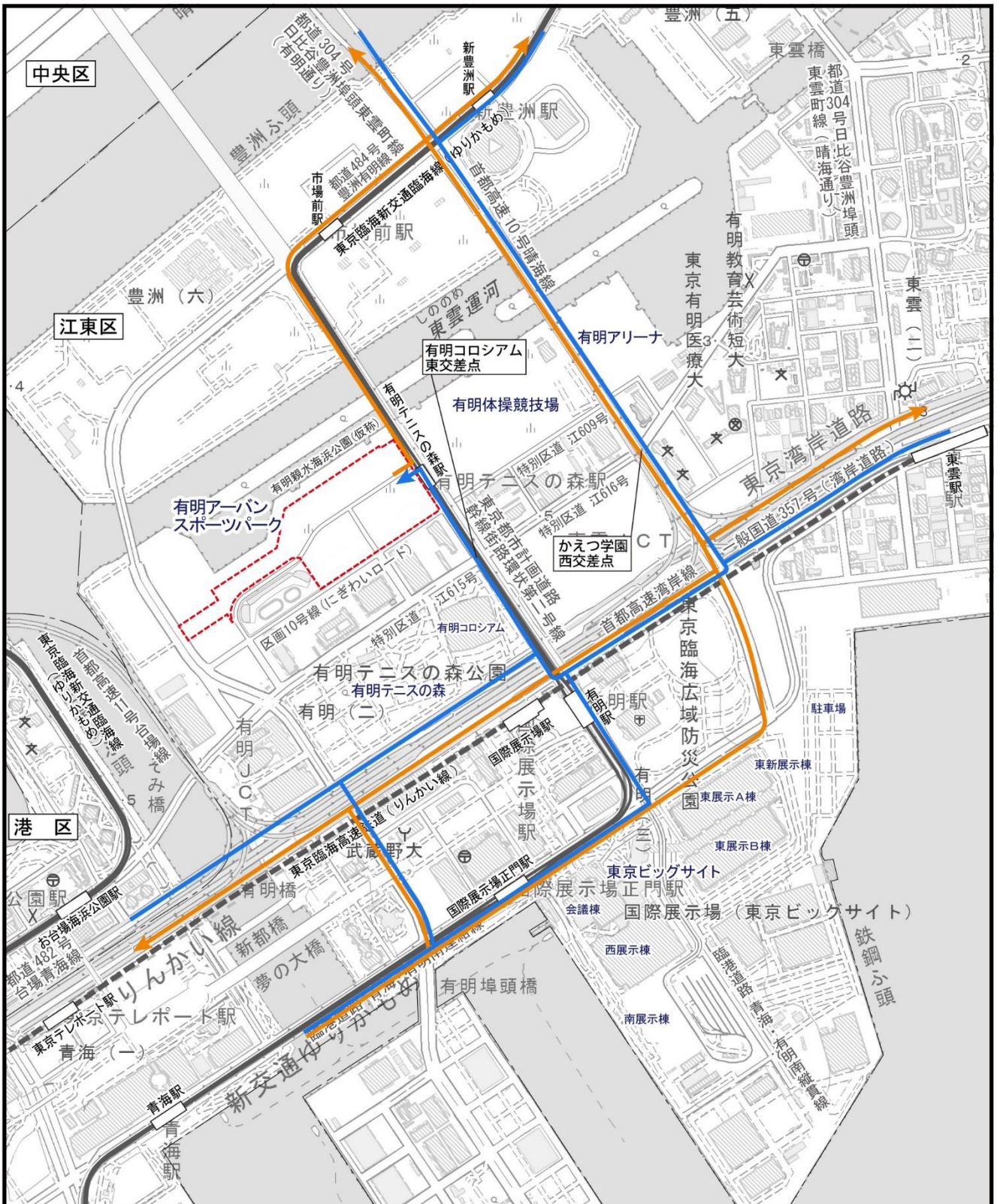
1) 予測した事項及び予測条件の状況

ア. 東京 2020 大会の実施に伴う、会場等の周辺及び会場等までのアクセス経路における歩車動線の分離の向上又は低下等、交通安全の変化の程度

工事用車両の走行ルートは、図 8.5-1 に示したとおりであり、湾岸道路等を利用するほか、東京都市計画道路幹線街路環状第二号線、都道 304 号日比谷豊洲埠頭東雲町線（有明通り）及び臨港道路 青海・有明南連絡線等を利用した。

工事用車両の走行ルートは、ほとんどがマウントアップ形式の道路や横断防止柵等により歩道と車道が分離されている。計画地南東側の有明テニスの森東交差点及びかえつ学園西交差点において、工事用車両の走行ルートと通学路が交差していたが、歩行者用の信号と横断歩道が整備されており、一般歩行者の交通安全に配慮し、走行した。

工事用車両の走行にあたっては、工事用車両の出入口には交通整理員を配置し、計画地周辺の利用者も含めた一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮するほか、工事用車両運転者に対して安全走行を指導し、徹底した。また、有明西学園に面する計画地南側の区画 10 号線（にぎわいロード）や通学路に指定されている特別区道江 615 号及び江 616 号については利用せず、工事用車両の出入口についても東京都市計画道路幹線街路環状第二号線側に限定した。特に、有明西学園をはじめとする周辺教育施設や保育園の児童の登下校時間や登降園時間（主に 7:00～8:30 及び 14:00～18:00）においては、一時停止等の歩行者の安全確認を徹底し、都道 304 号日比谷豊洲埠頭東雲線（有明通り）のかえつ学園西交差点は走行しなかった。



凡 例

- 計画地
- 区界
- 東京臨海新交通臨海線
(ゆりかもめ)
- 東京臨海高速鉄道
(りんかい線)
- ➔ 工事用車両集中ルート
- ➔ 工事用車両発生ルート



Scale 1:15,000



図8.5-1
工事用車両の走行ルート

2) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.5-3(1)～(3)に示すとおりである。なお、交通安全に関する問合せはなかった。


表 8.5-3(1) ミティゲーションの実施状況(東京 2020 大会の開催後)

<p>ミティゲーション 実施状況</p>	<p>・工事用車両の走行ルートは、計画地までの歩行者の交通安全への配慮のため、極力、湾岸道路等を利用する。</p>
<p>道路沿道に及ぼす工事用車両の影響を可能な限り低減するため、工事用車両の走行にあたっては、極力、湾岸道路等の幹線道路を走行するよう朝礼等で指導した。</p>  <p style="text-align: center;">朝礼の状況</p>	
<p>ミティゲーション 実施状況</p>	<p>・工事用車両の走行ルートは、有明西学園に面する区画 10 号線（にぎわいロード）や通学路に指定されている特別区道 江 615 号及び江 616 号を利用せず、工事用車両の出入口についても東京都市計画道路幹線街路環状第二号線側に限定する。特に、有明西学園をはじめとする周辺教育施設や保育園の児童の登下校時間や登降園時間（主に 7：00～8：30 及び 14：00～18：00）においては、一時停止等の歩行者の安全確認を徹底し、登校時間（7：30～8：30）において都道 304 号日比谷豊洲埠頭東雲線（有明通り）のかえつ学園西交差点は利用しない。</p>
<p>工事用車両の走行にあたっては、極力、湾岸道路等の幹線道路を走行し、通学路に指定されている区画 10 号線、特別区道 江 615 号及び江 616 号は走行せず、工事用車両の出入口については、東京都市計画道路幹線街路環状第二号線側に限定するよう指導した。 また、有明西学園をはじめとする周辺教育施設や保育園の児童の登下校時間や登降園時間（主に 7：00～8：30 及び 14：00～18：00）においては、一時停止等の歩行者の安全確認を徹底し、登校時間（7：30～8：30）においては都道 304 号日比谷豊洲埠頭東雲線（有明通り）のかえつ学園西交差点は利用しないよう指導した。</p>	
 <p style="text-align: center;">車両走行ルートに関する看板</p>	

表8.5-3(2) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者、自転車、一般車両等の優先、交差点進入時や右左折時における歩行者、自転車の安全確認について、工事用車両運転者に対する指導を徹底し、児童及びその保護者、その他歩行者の交通安全に配慮する。
実施状況	<p>朝礼等で、工事用車両運転者に対する交通法規の遵守の徹底を指導した。また、交通法規の遵守など安全運転の徹底を心がけるよう指導するとともに、特に、児童等に対してはより一層の配慮を行うよう指導した。</p>  <p style="text-align: center;">朝礼の状況</p>
ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> 工事用車両の出入口には交通整理員を配置する予定とし、計画地周辺の利用者も含めた一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮する。
実施状況	<p>工事用車両の出入口には交通整理員を配置し、工事用車両の出入りに際して、一般車両及び一般歩行者の通行に著しい支障を与えないように努めた。</p>  <p style="text-align: center;">交通整理員の配置</p>
ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> 工事用車両の走行にあたっては、安全走行を徹底する。
実施状況	<p>朝礼等で、工事用車両運転者に対する交通法規の遵守の徹底を指導した。</p>

表8.5-3(3) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション	・工事用車両の集中稼働を行わないよう、可能な限り工事工程の平準化に努める計画である。
実施状況	工程会議において、工事工程を調整することにより、工事用車両が一時的に集中することを防止した。
ミティゲーション	・工事用車両の走行に伴う、教育施設や周辺市街地への影響を極力軽減するため、計画地周辺において同時期に行われる有明アリーナ、有明体操競技場、有明テニスの森（有明コロシアム改修工事を含む）及びIBC/MPCを含む周辺事業者との情報共有を行い、工事用車両が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める計画としている。
実施状況	<p>有明アリーナ、有明体操競技場、有明テニスの森及びIBC/MPC建設事業の情報確認、区立有明西学園につながる計画地南側のにぎわいロードにおける工事用車両の通行禁止、及び工事説明を適宜実施することにより、周辺市街地への影響を低減するように努めた。</p> <p>また、工程会議において、工事工程を調整することにより、工事用車両が一時的に集中することを防止した。</p>
	
工程会議の様子	

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 東京 2020 大会の実施に伴う、会場等の周辺及び会場等までのアクセス経路における歩車動線の分離の向上又は低下等、交通安全の変化の程度

工事中の車両の走行ルートは、ほとんどがマウントアップ形式の歩道や横断防止柵等により歩道と車道が分離されていた。計画地南東側の有明テニスの森東交差点及びかえつ学園西交差点において、工事中の車両の走行ルートと通学路が交差するが、歩行者用の信号と横断歩道が整備されている。

工事中の車両の走行にあたっては、工事中の車両の出入口には交通整理員を配置し、計画地周辺の利用者も含めた一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮するほか、工事中の車両運転者に対して安全走行を指導し、徹底した。また、有明西学園に面する計画地南側の区画 10 号線（にぎわいロード）や通学路に指定されている特別区道江 615 号及び江 616 号については利用せず、工事中の車両の出入口についても東京都市計画道路幹線街路環状第二号線側に限定した。特に、有明西学園をはじめとする周辺教育施設や保育園の児童の登下校時間や登降園時間（主に 7:00～8:30 及び 14:00～18:00）においては、一時停止等の歩行者の安全確認を徹底し、登校時間（7:30～8:30）において都道 304 号日比谷豊洲埠頭東雲線（有明通り）のかえつ学園西交差点は利用することはなかった。

以上のことから、予測結果とフォローアップ調査結果は概ね一致する。

本書に掲載した地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図を使用したものである。

本書に掲載した地図は、国土地理院長の承認（平24関公第269号）を得て作成した東京都地形図（S=1:2,500）を使用（3都市基交第145号）して作成したものである。無断複製を禁ずる。

令和4年2月発行

登録番号(03) 145

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

フォローアップ報告書（大会開催後）

（有明アーバンスポーツパーク）

編集・発行 東京都オリンピック・パラリンピック準備局
大会施設部調整課
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03(5320)7737

内容についてのお問い合わせは上記へお願いします。



古紙/バルブ配合率100%再生紙を使用